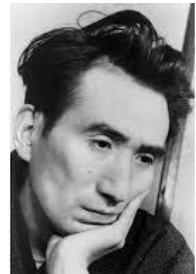


スクラム



太宰 治 『正義と微笑』

全校集会で西村校長先生が話しておられた太宰治の小説です。先生も興味が出たので読んでみました。思春期のある少年の日記を読むという形式のお話でした。少し抜き出してみます。

中学校の時、みんなから尊敬を集めていたある先生が授業中に「先生を辞める」と言いました。理由は様々なのですがその時に生徒たちに向けてした話がこちらです。

「もう君たちとは逢えねえかも知れないけど、お互いに、これから、うんと勉強しよう。勉強というものは、いいものだ。代数や幾何の勉強が、学校を卒業してしまえば、もう何の役にも立たないものだと思っている人もあるようだが、大間違いだ。植物でも、動物でも、物理でも化学でも、時間のゆるす限り勉強して置かなければならん。日常の生活に直接役に立たないような勉強こそ、将来、君たちの人格を完成させるのだ。何も自分の知識を誇る必要はない。勉強して、それから、けろりと忘れてもいいんだ。覚えるということが大事なのではなくて、大事なのはカルチベートされるということなんだ。カルチュアというのは、公式や単語をたくさん暗記している事ではなくて、心を広く持つという事なんだ。つまり、愛するということを知る事だ。学生時代に不勉強だった人は、社会に出てからも、からずむごいエゴイストだ。学問なんて、覚えると同時に忘れてしまってもいいものなんだ。けれども、全部忘れてしまっても、その勉強の訓練の底に一つかみの砂金が残っているものだ。これだ。これが貴いのだ。勉強しなければいかん。そうして、その学問を、生活に無理に直接に役立てようとあせってはいかん。ゆったりと、真にカルチベートされた人間になれ！これだけだ、俺が言いたいのは。」

読んでどんな感想を持ちましたか？ほんの一部を抜粋しただけなので、興味が出た人はぜひ全部読んでみてください。たくさんの本を読むことも“心を広く持つ”につながっていくと思いますよ。

本をよく読むことで自分を成長させていきなさい。本は著者がとても苦労して身につけたことを、たやすく手に入れさせてくれるのだ。

～ソクラテス～

あなたが絶対に知るべき唯一のものとは、図書館の場所である。

～アルベルト・aignシュタイン～

きさらぎ
如月



2月

みずがめ座

発行日:2月18日

発行者:2年学年主任 堺